令和6年度　江戸川区立西小岩小学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	考える子　　やさしい子　　健康な子		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	・どの子供も「学校が楽しい」と感じ、安心して学べる学校 ・主体的・対話的に学び、自他を尊重し合い、互いを大切にできる心豊かな子 ・温かさの中に厳しさも加味し、意欲と自覚・自律を促す、人間味あふれる教師
前年度までの本校の現状	成果	『対話的に学び、確かな読みの力を身に付ける子の育成　～系統的な指導を通して～』を研究主題として、国語科文学的文章教材の学習指導法在り方について推進することで、より系統立てた指導ができ、児童に読みの力を育むことができた。また、ユニバーサルデザインの視点をもって学級・学校経営を図ることができた。	課題	・CD層の児童についての基礎学力の向上（全国学力調査等含む） ・教員一人一人の授業力向上 ・児童ならびに保護者の理解を十分得ての特別支援教育の推進。 ・健康教育の実践的取組（歯科指導含む）

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○学力分析に基づく「誰一人取り残さないための学力向上に向けたアクションプラン」の充実	・東京ベーシック・ドリルならびに区学力調査	・東京ベーシック・ドリル診断シートならびに区学力調査70％通過率60％以上	C	B	C	・児童アンケート「授業は分かりますか」の肯定的回答90%であった。 ・東京・ベーシックドリル70%通過率が、３年は80%と達成したが、その他の学年は、４から6ポイント低く平均62%であった。	B	・問題の読み取りや、俯瞰的にみられるような指導ができるとよい。 ・外国籍の児童が理解できるような取組を検討して欲しい。	B	・児童アンケート「授業は分かりますか」の肯定的回答90%であった。 ・東京・ベーシックドリル70%通過率が、２・３年は80%を達成したが、その他の学年は、3～8ポイント低く、平均67%であった。	B	・文章問題の正確な読み取りや、単純な計算のミスがないよう繰り返しの指導ができるとよい。 ・わかりやすい授業内容を心がけて欲しい。外国籍児童への個別対応についてさらに検討して欲しい。	・文章問題やA・B層に対しての課題を増やすなど、学習内容に幅をもたせていく。 ・朝学習について、基礎的な学習の成果が得られるようピンポイントで学習させるなどの工夫をしていく。
		・補習の実施などによる指導の充実、学習習慣の確立 ・朝学習（ステップアップタイム）の計画的推進	・外部委託業者による、算数に特化した放課後補習（２年生以上）週１回実施 ・児童アンケート「主体的な学び」の肯定的評価80%	B	B	B	・外部講師による補習を引き続き実施。算数の基礎的な力が付いてきた児童が昨年より少しずつ増えている	B	・外部講師と学校の先生方とが連携できるようにして欲しい。 ・家庭での学習について、今後、有効な手立てを検討して欲しい。	B	・外部講師による補習を、引き続き実施。基礎学習のみならず応用的な学習にも少しずつ対応している。 ・児童によっては卒室を検討、その後の補充も実施している。	B	・外部講師の指導力についても確認できれば良い。 ・日常の学習との差のついて分析して欲しい。 ・家庭での学習について、更に有効な手立てを検討して欲しい。	・現学年以前の学習内容の理解が十分ではない児童の底上げに努める。 ・家庭学習の内容について、学年内で共通理解をもち、保護者へ呼びかけていく。
	○読書科の更なる充実	・「調べる学習コンクール」に向けた探究的な学習の取組 ・巡回職員、図書ボランティアとの連携の充実	・探究的な学習とし全学年が「江戸川区調べる学習コンクール」へ応募 ・読書通帳の活用と読み聞かせ（図書ボランティア等）週１回	B	B	B	・全児童が調べる学習コンクールに応募している。 ・図書ボランティアにより、読み聞かせ活動が充実してきた。（月１回以上）	B	・図書ボランティアは、今後もうまく活用して欲しい。 ・地域・保護者からも「読み聞かせボランティア」の募集や「子供に読ませたい本」を募ってみるのもよい。	B	・全児童が調べる学習コンクールに応募、毎年入賞者が出ている。 ・図書ボランティアにより、読み聞かせ活動がさらに充実してきた。（月２回以上）	B	・図書ボランティアの活用をお願いしたい。 ・今後は、地域からの「読み聞かせボランティア」の募集を、積極的に行っていけたらよい。	・朝読書や昼読書の内容を工夫する。学力向上委員会で検討し、全校で取り組む。 ・月に２回来校する図書館員を活用し、さらなる図書室整備と読書科の計画の改善を図る。
体力の向上	○個に応じた体力向上を目指した、運動の日常化	・新体力テスト等の体力カルテ作成、なわ跳びチャレンジの実践、クラス遊びの充実	・体力テストの意識づけを１か月前から実施 ・児童アンケート「外遊びをしている」の回答90%。 ・なわ跳びチャレンジ年３回実施	C	C	C	・体育の授業で頑張れた、外遊びをしている児童60%で90%の目標を達成できなかった。取組の工夫が必要。 ・新体力テストのポイントが平均２ポイント程度下回った。	C	・子供は適応能力があるので、日頃から体力づくりなど積極的に実施して欲しい。 ・家庭でも取り組めるような内容を実施してはどうか。	C	・「体育の授業でがんばれた」のアンケートでは90%であったが「外遊びをしている」では68%と、目標を達成できなかった。 ・なわとびチャレンジ・ランニングウィークなどの取組はおおむね良好であった。	B	・なわとびやランニングの習慣づけは効果的。日頃から体力づくりなど、積極的に実施して欲しい。 ・家庭にも呼びかけるような工夫を実施してはどうか。	・新体力テスト内容の周知を図る。（「持久力」「投力」などの取り組みの工夫） ・元気アップタイム、休み時間の遊び等に加えて、なわとびチャレンジ・ランニングウィーク等の取組について実施内容を改善していく。
	○校内研究の推進	・校内研究テーマ『「わかる」「できる」喜びを感じる授業づくり～体育科における「不易」と「流行」を」捉えた指導を通じて～』の実践	・研究授業年３回以上 ・「体育で頑張れた」肯定的評価80%	B	B	B	・体育科の研究授業を、年２回は実施した。 ・「体育で頑張れた」肯定的評価平均87%と目標値を達成している。	B	・「体育で頑張れた」肯定的評価の目標値を達成しているので、引き続き運動が好きな児童を育成して欲しい。	B	・体育科の研究授業を、年４回実施した。 ・「体育で頑張れた」肯定的評価平均90%と目標値を達成している。	B	・人工芝を活かした取り組みなどを企画するなどして、引き続き運動が好きな児童を育成して欲しい。	・研究教科としての体育科を充実させて児童の興味関心を引き出していく。 ・人工芝の校庭を生かした取り組みをさらに検討していく。
	○健康教育の推進	・養護教諭と連携した健康教育の推進 ・栄養教諭と連携した食育授業の推進	・「歯っピー週間」全学年、年３回実施 ・栄養教諭による食育授業、年３回以上実施	B	A	B	・「歯っピー週間」を6月に実施、時期をずらすなど工夫している。 ・栄養教諭による食育授業は、日々の献立解説のほか、２学期以降に出前授業を計画している。	B	・「歯っピー週間」の取組は大変良い。 ・歯は一生のものであるので、保護者の理解を得ることも考えていく。	A	・「歯っピー週間」を全学期に実施、水道の個数の関係から、時期をずらすなど工夫している。 ・栄養教諭による食育授業は、２学期以降に出前授業を実施、、また鶴岡市との交流試食会では鯨を使った給食献立を知ることができた。	A	・「歯っピー週間」の取組今後も続けて欲しい。 ・保護者の理解を得る取組を考えていく。 ・出前授業や試食会今後も実施して欲しい。	・次年度も「歯っピー週間」を学期に１回設定し、歯科衛生の習慣づけを呼び掛けていく。 ・栄養教諭を活用した取組を計画していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実	・巡回指導教員との連携、個に応じた指導の充実	・ケース会議・支援会議の充実月１回以上 ・ユニバーサルデザインの視点で授業をしている教員100%	B	B	B	・ケース会議等児童支援の取組は月１回以上実施した。 ・ユニバーサルデザインの視点を作り、それらを実施している教員が100%であった。今後も校内体制としてきちんと位置付けていく。	B	・個に応じた指導の充実をお願いしたい。 ・ケース会議の設定を、できるだけ多くしていく。	B	・ケース会議やいじめ対策委員会等、対応すべき会議は月１回以上、適宜実施した。 ・ユニバーサルデザインの視点に則った授業を実施している教員は100%であった。今後も校内体制として位置付けていく。	B	・個別に対応しなければならないケースが増えていることが分かった。 ・ケース会議は必要に応じて実施して欲しい。	・ユニバーサルデザインを取り入れた学習指導・学習環境の実施100%を目指し、校内スタンダードを確立させていく。
	○エンカレッジルームの活用促進	・エンカレッジルームの活用促進 ・全校保護者への理解	・児童アンケート「思いやりをもって生活できる」肯定的評価80% ・道徳授業公開講座…年１回	B	B	B	・児童アンケート「思いやりのをもって生活できる」肯定的評価92%であった。	B	・ケース会議の設定を、できるだけ多くしていく。	B	・児童アンケート「思いやりをもって生活できる」の肯定的評価が」95%であった。 ・エンカレッジルームの理解を図る機会を1回できた。	B	・今後は、ケース会議や外部関連機関との連絡会議を、年1回以上は実施していって欲しい。	・ケース会議を月に１回以上実施し、情報共有を確実に行えるようにする。
	○チルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・体罰、児童虐待未然防止に向けた取組の充実 ・地域連絡協議会との意見交換の実施	・外部講師による校内研修・の学校との交流　年１回以上 ・地域との懇談会に年１回以上参加	C	B	C	・民生児童委員との連携を、9月に1回実施した。 ・副籍交流の計画を1回以上すすめることができた。	C	・家庭で自立が困難な児童がいるようであれば、民生児童委員に働きかけるなど、連携を図っていく。	B	・民生児童委員との連携を、６・９月に実施した。 ・副籍交流の計画を年3回以上すすめることができた。	B	・外国籍の児童等、家庭に事情があることも想定できるので、情報を共有し、民生児童委員に働きかけるなど、連携を図っていく。	・個別の面談を設けたり、学校での様子を適宜知らせたりするなどして、保護者への理解を十分得られるようにする。
不登校・いじめ対応の充実	○子供たちの健全育成に向けた取組の充実	・生活指導連絡会…毎週水曜日 ・身近な事柄から考える、道徳授業の充実 ・道徳授業地区公開講座（10月）の実施	・児童アンケート「学校が楽しい」と回答９０％以上 ・道徳授業公開講座…年１回	C	B	C	・「学校が楽しい」の回答88%。引き続き、安心・安全に努め、心の教育を推進していく。	C	・「学校が楽しい」の肯定的回答が比較的高いことは良い。 ・道徳に関する「学校教育アンケート」の内容について、よりわかりやすくして、保護者の思いがわかるようにしていく。	B	・「学校が楽しい」の回答90%であったが、10%の児童について改善すべきところを検討していく。 ・　道徳授業地区公開講座では、外部講師を招き、レジリエンス（自己回復力）について保護者と学ぶ機会を設けることができた。	B	・「学校が楽しい」の肯定的回答が比較的高いことは良い。 ・道徳に関する「学校教育アンケート」の内容について、よりわかりやすくして、保護者の思いがわかるようにしていく。	・不登校児童がいた場合の教室の整備や、エンカレッジコーナーの充実を図り、児童の「居場所」づくりを行う。 ・道徳科の授業などを通して、学校全体で「心の育成」に取り組む。
	○hypaer-QUの活用、教育相談の強化	・hypaer-QUによる学年・クラスの実態調査	・hypaer-QUの実施、年１回以上 ・教員向け研修会、年１回以上	C	C	C	・hypaer-QUの実施は１回実施、２回目も予定している。実施に伴い、校内研修会を１回以上行った。	C	・様々な取組で、児童の実態を分析していることは良いと思う。 ・今後の学校生活に活かせるようにして欲しい。	B	・hypaer-QUの実施の年２回実施に伴い、クラスの様子や児童の意識の変化を確認することができた。 ・今後も児童の自己肯定感を向上できる手立てを工夫していく。	B	・児童の実態を分析し、今後の指導に活かせることは良いと思う。 ・楽しく学校に来れるような工夫を、是非行って欲しい。	・生活・児童支援部で、児童が安心して過ごせる環境づくりをすすめていく。 ・hypaer-QUの研修会を年１回以上実施し、教員の理解を深める。
	○いじめの未然防止に向けた取組の充実	・いじめをなくしていく環境づくりと、未然防止・早期発見・早期対応で組織的に解決 ・『あのねＢＯＸ』の設置	・いじめに関する授業、年３回以上 ・こころのアンケート年３回 ・児童アンケート「先生に相談できる」肯定的評価90%	C	B	C	・心のアンケート　年３回 ・いじめ防止研修を１回実施、いじめアンケートは6月に行った。『あのねＢＯＸ』を設置したことで、気軽に相談できる環境づくりとなった。	B	・当たり前のことが当たり前でなくなってきているので、そこも含めて、「いじめ」の定義について、保護者により丁寧に話せると良い。	C	・心のアンケート　年３回 ・いじめ防止研修を年３回実施、いじめアンケートは6・11・２月に行った。 ・『あのねＢＯＸ』やSC面談の充実で、早期発見・対応ができるようになってきた。	B	・「いじめ」の定義について、改めて保護者に、より丁寧に話せる機会があると良い。 ・家庭による価値観の違いを感じるようになった。	・心のアンケート、いじめをテーマにした授業は年３回以上実施していく。 ・常に組織で対応することを視野に、生活指導夕会やいいところ見つけ等を活用して、校内共有させていく。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○自校の取組の積極的な発信	・学校ホームページの内容を検討し、校内の出来事を発信する。 ・学校公開・学校説明会の周知	・行事や出来事など、ホームページ等オンラインで毎日更新 ・年６回の学校公開等、２週間前に周知	C	B	C	・学校ホームページを夏季休業中にリニューアルし、より校内行事などをアピールできるようになった。 ・学校公開等を、tetoru等の連絡ツールで適宜示すことができた。	C	・学校ホームページを充実させて欲しい。 ・連絡手段が増えて便利になってきているが、今後も対面での会話を大切にして欲しい。	B	・学校ホームページを充実させ、週に２回以上、校内行事を中心にアピールしていった。 ・学校公開等を、tetoru等の連絡ツールで適宜示し、事前の案内を行うことができた。	B	・学校ホームページをもっと充実させて欲しい。 ・連絡手段が増えて便利になってきているが、地域への同様の発信が可能であれば、実施していって欲しい。	・学校ホームページの内容をさらに検討し、校内の出来事を週に２回以上発信する。 ・学校公開・学校説明会については「tetoru」を活用して、今後も周知していく。
	○学校関係者評価の充実	・学校経営計画に基づいた指標とそれに対しての成果の分析実施 ・経営支援部会の更なる充実	・学校評議員による年２回の評価実施、肯定的評価70%以上 ・経営支援部会、月１回実施	B	B	B	・学校評議員会を２回実施、授業観察も３回実施できた。 ・学校関係者評価にて肯定的評価を８割以上いただいた。	B	・今後、何か問題が起こった時などには、外部の関係機関とも連携をすすめて改善できるように取り組んで欲しい。	B	・学校評議員会を４回実施、授業観察・行事の参会も年５回実施できた。 ・学校関係者評価にて肯定的評価を８割以上いただくことができた。	B	・地域や外部の関係機関とも積極的に連携をすすめて、改善できるところは実施していって欲しい。	・学校評価については、年度内できちんと分析し、次年度に確実に活かせるようにする。
	○保幼、小中連携教育の推進	・「NorthWest&Fourth」（中学校区）を基にした行事のすり合わせ ・保幼、小中連携行事の充実	・６年生の中学校体験の実施　年１回以上 ・行事交流　年１回以上 ・次年度行事のすり合わせ（８月実施）	C	B	C	・次年度行事のすり合わせを9月には実施、来年度計画に反映させる。 ・中学校文化祭に教員が参会する。（10月）	C	・交流を図る意味でも、入学式には保育園・幼稚園の関係の方々にも、参列していただきたい。	B	・次年度行事のすり合わせを年内には実施した。できる限り地域の連携学校とは交流できるよう工夫していく。 ・10月の中学校文化祭に、教員が3名参会した。	B	・交流を図る意味でも、各校の行事を確認し合って見学など実施していって欲しい。 ・兄弟姉妹のいる家庭もいるので、連絡事項は共有して欲しい。	・様々な行事や、学年のイベントなどをうまく活用し、教員と保護者との信頼関係を確立していく。 ・関係関連学校との連携は学期に１回以上実施していく。
特色ある教育の展開	○全校俳句・短歌（４年取組）の実施	・四季折々の季節感を言葉で表現できる児童の育成	・児童アンケート「俳句作りが楽しい」「季節を感じるようになった」と回答80% ・校内俳句表彰　年３回	B	B	B	・季節の俳句作りは全学年で取り組めている。 ・全校のおよそ88%の児童が、季節ごとの俳句づくりに楽しく取り組んでいる。	B	・子供たちの俳句はとてもよく書けている。 ・子供たちの可能性を引き出し、良さを伸ばすよう、今後も継続して取り組んでほしい。	B	・季節の俳句作りは年３回、全学年で取り組めている。 ・全校のおよそ89%の児童が、季節ごとの俳句づくりに楽しく取り組んでいる。	B	・子供たちの俳句はとても素晴らしく、代表者の作品もとても立派である ・季節感を感じるなど、子供たちの感性を伸ばす活動。今後も継続して取り組んでほしい。	・俳句の取り組みは年間３回実施。各回ごとに表彰するなど、児童の意欲につながるように工夫していく。 ・学校の特色として、校内掲示等で推進していく。
	○教科担任制による専門教科の授実	・高学年の教科担任制導入による中学校へのスムーズな学習スタイルの移行 ・１年生からの算数習熟度別指導による授業の充実	・教科担任制についての効果検証アンケート肯定的評価70%以上	B	B	B	・複数の教員の目で児童を見ていくという「教科担任制」についての保護者へ向けた周知理解が課題である。	B	・児童がいろいろな先生方の授業を経験できるというメリットを、是非活かしてほしい。	B	・学年での時数調整には工夫が必要。 ・複数の教員の目で児童を見ていくという「教科担任制」についての保護者へ向けた周知理解は今後も課題である。	B	・児童はいろいろな先生方の授業を経験できるし、先生方も同じ授業を何回か実施でき、スキルアップのメリットも大きい。	・教科担任制についての児童のアンケートや教員の意見を経年で分析し、成果と課題を明確化していく。 ・学習面・生活面における複数教員での指導・見守りを充実化させる。
	○外国語教育の推進	・系統的指導とALTの効果的な活用 ・全学年で外国語活動を取り入れた学習内容の工夫	・「イングリッシュ・デイ」年３回実施 ・指導教諭の模範授業年３回以上実施	A	A	A	・「イングリッシュ・デイ」を学期に1回実施、児童は楽しく活動できていた。 ・指導教諭の模範授業を３回以上実施、校内外の参観者の学びに有効であった。	A	・「イングリッシュ・デイ」の取組は良い。楽しい活動であると思う。 ・外国語を楽しんでいる児童が多く、とても良い。	A	・「イングリッシュ・デイ」を年間３回実施、児童は、集会等含めて、楽しく活動できていた。 ・指導教諭の模範授業を３回以上実施、オンラインでも学習を行うなど、校内外の参観者の学びに有効であった。	A	・「イングリッシュ・デイ」の取組はとても良いし、大変効果的であると思う。 ・外国語を楽しんでいる児童が多く、中学校の学習にも活かされていくと思う。	・多様性も視野に入れ「イングリッシュ・デイ」の取組を推進していく。 ・指導教諭の授業を、多くの教員が参観するなどして、授業力の向上を目指す。